

新生クラブ

市民の声を反映し「だれもが安心して住み続けたいまち」へ



和田 美奈 議員

MINA WADA



令和4年度施政方針について

問 コミュニティバスや市民乗り合いタクシー（あかねちゃん）は、高齢化の進む本市において市民の日常の足としてとても重要であり、その利便性をさらに高めていくことは「だれもが安心して住み続けたいまち」の根幹である。「コミュニティバスに関しては、朝夕の各駅へのアクセスや高校などへのアクセスをよくすることが必要だと考えるがどうか。市民乗り合いタクシーにおいては、月曜日の受付開始時間を早めたり、予約期限を現行の1時間半からさらに短くすることは考えていないか。

答 コミュニティバスはコロナ禍の現在も一日約240人の方が利用されている。通学の交通手段として多くの高校生が利用しており、ダイヤ編成時には、

通学されている高校に登下校の時間を確認してダイヤ編成を行う等、配慮を行っている。

あかねちゃんに関しても、予約時間の短縮を行ったり、目的地を追加する等、運行内容を見直し利便性の向上に努めてきた。

今後利用者の方をお聴きし、可能な範囲で利便性向上に取り組み、安全・安心・快適に誰もが移動できる持続可能な交通環境の整備に努めていきたい。

問 中学校区を軸とした小中一貫教育の体制づくりを進めるとともに、新宮中学校区においては小中一貫教育の施設整備を図るとしているが、具体的な取組や、小中一貫校整備の校舎構想などについて伺う。

答 中学校区ごとに小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を推進していく。進学時の不安を軽減するとともに、ふるさとを愛する豊かな人間性を育んでいきたい。

新宮地区においては、小学校校舎と中学校校舎を同一敷地内に建設する小中一貫校を想定している。

創政会

だれもが住み続けたいまちづくりについて



三木 浩一 議員

KOICHI MIKI



姫新線の増便について

問 姫新線の減便は通学・通勤だけでなく観光客の足としても大切であり、乗客数のさらなる減少につながる。新宮以西の増便を含め、沿線市町と連携した要望活動はどのようになっているのか。

答 減便は、到底看過できない。JR西日本とは何度も要望書の提出や話し合いを行ってきたが、「社会行動変容の定着と利用状況に合わせたダイヤに改正した」との回答であった。今後とも要望を続けていく。

保育・教育環境について

問 地元のこども園に通えない子どもをなくすべきではないか。新宮地区の小中一貫校建設の計画はどのように進めていくのか。他地区はどうするのか。

答 こども園の入園に関して、保護者の思いを受け止め、一号・二号認定の定員の変更な

どをして、可能な限り入園できるように調整している。新宮地区の小中一貫校については、準備委員会を設置し、保護者・教職員・地元の方々を含めた意見交換の機会を設け、未来思考の視点を持って進めたい。御津地区については、用地の確保を検討している。龍野地区、揖保川地区は児童数の推移を注視し総合的に検討していく。

人権施策について

問 「パートナーシップ宣誓制度」は画期的なことである。その制度による得られる権利等にはどんなものがあるのか。

答 市営・県営住宅への入居が可能になる。たつの市民病院では家族と同様に面会や病状説明が受けられる。民間では、一部携帯電話会社の家族割や生命保険の受取人になることが可能となる。

その他の質問事項

- 敬老えらべるギフト事業について
- 高齢者タクシーや福祉タクシーなどの利便性向上について
- 自治体DXの実現の具体的な将来像について